

令和3年度病虫害発生予察情報 予報第9号（10月）

令和3年10月12日
発表：福島県病虫害防除所

1 野菜・花き

作物名	病虫害名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった(±)。	多発すると防除が困難になるので、発病初期から防除を実施する。
	土壌病害 (萎黄病、炭疽病)	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった(±)。	多湿条件で発生が多くなるので、換気を十分に行う。
	アブラムシ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった(±)。	低密度時から防除を実施する。
	ハダニ類	全 域	—	やや多い	発生ほ場割合は平年並であった(±)が、 天候予報(10月7日発表)によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている(+) 。	低密度時から防除を徹底する。 抵抗性の発達が懸念されるので、殺ダニ剤の選択には注意する。
	コナジラミ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった(±)。	寄生程度の高いほ場では、すす病の発生が懸念されるため、低密度時から防除を徹底する。
野菜・花き共通	ハスモンヨトウ	全 域	—	平年並	イチゴでの発生ほ場割合は平年並であった(±)。 フェロモントラップの誘殺数は平年並であった(±)。	成虫の飛来、産卵は11月上旬頃まで続くので、ほ場をよく観察し、寄生や被害が見られた場合は、速やかに防除を行う(令和3年9月27日付け防除情報参照)。

注) 予報の根拠の中で (+) は多発要因、(-) は少発要因、(±) は平年並要因であることを示す。

○侵入を警戒している病虫害

かんしょ (サツマイモ)	<p>■サツマイモ基腐病</p> <p>本病は糸状菌によって引き起こされ、サツマイモ塊茎の腐敗や葉・茎が枯れる病気です。はじめに地際部の茎が黒～暗褐色に変色、腐敗し、やがて茎葉が萎凋し、枯死します。発病が蓄梗(しょうこう：茎と塊根を繋ぐ部分)を経て塊根まで拡大すると、なり首側から塊根が腐敗します。罹病した塊根やつるで伝搬し、植物残渣が翌年の伝染源になります。</p> <p>本病は平成30年に沖縄県で初めて確認され、その後、急速に発生が拡大し、近県でも発生が確認されています。</p> <p>本県でも発生県からの苗購入が確認されていることから、注意が必要です。ほ場でまん延すると防除が困難になるため、生育不良の株や塊茎に腐敗が見られた際には、直ちに各農林事務所(農業振興普及部・農業普及所)、病虫害防除所又は農業総合センター生産環境部作物保護科へ連絡ください。</p>
-----------------	---